

成功にはタイミングが必要

時代に先行し過ぎた技術

中世にはヨーロッパの強国であったベネチアの主要産業はガラス細工で、その振興のため一五世紀に世界最古の特許制度が制定された。新規の技術を開発した人間には一〇年間の独占の権利を付与すると同時に、技術を公開して産業を発展させる目的である。この一〇年間の独占期間がくせもので、時代に先行し過ぎた発明は社会に適合するようになった時期には特許期限が終了してしまっていることになる。いくつかの事例を紹介する。

アメリカではエアバッグを装着した自動車は一九七四年に登場し、日本でも一九八七年に登場している。現在ではほとんどの自動車に装備さ

れているこの装置はアメリカでは一九五二年に特許が取得されているが、日本では個人の発明家である小堀保三郎ほりやすぶろうが開発し一九六三年に特許を取得した。しかし実装されるまで二〇年近い歳月がかかり、事務所の運営費用に困窮したことも影響し、一九七五年に小堀夫妻は自殺してしまつた。

アメリカのアイロボットは地雷除去ロボットを開発していた企業であるが、この技術を応用して二〇〇二年に発売した掃除ロボット「ルンバ」は世界で四〇〇〇万台以上が販売される人気商品になった。ところがそれより二〇年以上前の一九七九年に、任天堂は人間が無線操縦する「チリトリ」という円盤形状の掃除ロボットを発売している。実際の掃除に役立つほどの吸引能力はない

が、早過ぎたというのが最大の欠点であった。

フォード・モーターは一九〇八年に発売した「モデルT」によって躍進したが、多様な車種を販売したゼネラル・モーターズに逆転されてきた。そこで戦後になり、ヘンリー・フォードの息子で直前の社長エドセル・フォードの名前を使用した新車「エドセル」を発売した。しかし戦後の時代風潮になじまない派手なデザインは人気がなく、一〇万台で生産を停止し、フォードの最大の失敗製品になった。時代に適合しなかつたことになる。

商売では成功しなかった技術

一八五六年にクロアチアに誕生したニコラ・テスラはIQ二五〇以

上と推定され、一九一五年にはノーベル物理学賞候補にもなった天才である。一八八四年に渡米してエジソンの会社に就職するが、交流発電装置を発明したテスラは直流発電を推進していたエジソンと対立して辞職し、交流発電を推進する。現在の配電の大半は交流であり、テスラの見通しの的確さが理解できる。しかし、当時としては理解されず、晩年は孤独な生活であった。

このテスラを尊敬するのがイーロン・マスクで、販売している電気自動車の名前「テスラ」の由来である。このマスクの企業スペースXが二〇二〇年から運用しているのが、四〇〇〇機以上の小型衛星で構成される通信システム「スターリンク」である。ところがそれより二〇年以上前に実現した六六個の通信衛星による通信サービス「イリジウム」は、現在では細々とサービスを継続している存在になっている。

ボストンの歯科医師ホールズ・ウェルズは、笑気ガスを使用した見世物で舞台に登場した観客が怪我に

気づかずに平然としている様子から麻酔効果を見抜き、抜歯に利用できると自身の医院で使用し成功した。そこで一八四五年に公開実演をしたが、笑気ガスの投与不足で患者が悲鳴を上げ、失敗となった。悲観したウェルズは引退し、最後は自殺した。しかし技術を継承した助手が成功させ、人類は手術の苦痛から解放されることになった。

大半が日本に存在する長寿企業

ここまで紹介した「エドセル」「イリジウム」「チリトリ」などの経緯から、技術革新や新型商品の成功も失敗も市場に投入するタイミングが重要であるということが理解できる。しかし、社会には相違する原理で成功する技術や商品も存在する。普通の言葉ではロングセラーと表現される存在である。もちろん発売以後も細部の改良や性能の向上は継続されるが、長期に市場を確保している技術や商品である。

名前だけを紹介すれば、一八九〇

年発売の「花王石鹼」、一八九三年発売の「中将湯」、一八九九年発売の「森永ミルクキャラメル」、一九〇〇年発売の「福助足袋」、一九〇九年発売の「味の素」、一九二五年発売の「キューピーマヨネーズ」など、一〇〇年以上の歴史のある商品は数多く存在する。膨大な種類の商品が次々と市場に登場し消滅してきた歴史では貴重な存在であるが、その永続してきた秘密を研究することも重要である。

二〇〇八年の韓国銀行の調査によると、創業二〇〇年以上の歴史のある企業は世界に五五八六社存在し、五六％に相当する三一四六社は日本の企業である。その長寿企業の多数は、世界を市場とする巨大企業ではなく、地域に立脚する中小企業である。永続だけが企業の目標ではないが、発明や実用のタイミングに寿命が左右される商品が存在する一方、地味ではあるが長期に存続して社会を維持する商品もあることを認識すべきである。

東京大学名誉教授
つきお よしお
月尾嘉男



昭和一七（一九四二）年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究する。ともに、全国各地で私塾を主宰し、地域の有志と共に環境保護や地域計画に取り組み。

好評発売中
「AIに使われる人 AIを使いこなす人」
お求めはニューモラルブックストアにて

